

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2008 ～ 2009

課題番号：20830015

研究課題名（和文） 金融再建の政策過程：韓国，タイ，メキシコの比較研究

研究課題名（英文） Policy Making Process of Financial Restructuring: Comparative Study of South Korea, Thailand, and Mexico.

研究代表者

岡部 恭宜 (OKABE YASUNOBU)

東京大学・社会科学研究所・助教

研究者番号：00511445

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、韓国、タイ、メキシコが 1990 年代の金融危機後に取り組んだ金融再建について、ミクロの政策過程を比較分析するものである。

各国での現地調査を行うため、平成 20 年度はタイに、平成 21 年度はメキシコと韓国に出張した。いずれの国でも、財務省、中央銀行の現職・元幹部職員、大学教員、日本大使館関係者、邦銀の現地支店の幹部職員などに聞き取りおよび意見交換を実施した。さらに大学、研究所、政府機関で資料収集を行った。

以上の現地調査とその分析の結果、各国では歴史的な遺制や伝統が金融再建の方法に影響を及ぼしたことが明らかになった。

韓国では、政府介入の歴史的な伝統が政府の組織や官僚の思想に根付いていたことから、政権交代後の金大中政権においても、政府は積極的に金融再建を主導して、それが奏効した。

タイでは、政府が市場に介入しない遺制および思想、さらには商業銀行の伝統的な政治的影響力があつたため、政府は韓国のように積極的に不良債権処理や資本増強を行わず、民間銀行の自発的な再建を尊重した。

そしてメキシコでは、与党 PRI 政府は伝統的に市場に介入する政策を採っており、その影響で金融再建も政府主導で行われた。しかし、1982 年と 1994 年に二度の金融危機を経験した政府は、その経済思想を市場主義に転換しており、最終的な金融市場のあり方として外国銀行の参入を認めてしまった。そのため外国銀行が金融市場を支配する結果となった。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to explore, from a comparative perspective, political processes on financial restructuring that governments of South Korea, Thailand, and Mexico tackled after the financial crises in the 1990s.

The researcher visited Thailand and Mexico in 2009 and South Korea in 2010 for making research. In the three countries, he had interviews with incumbent and former executives of ministry of finance, central bank, professors and researchers of university and institutes, staffs of Japanese embassies and Japanese commercial banks. Also he worked to collect documents, articles and books at university libraries, institutions, and government organizations.

The researcher made an analysis based on the research in the three countries and reached the following conclusion.

The Kim Dae Jung government of Korea chose a government-led approach because of legacy of its interventionism in the market and the control of commercial banks. This legacy was evident in the organization and personnel of economic ministries such as the

Financial Supervisory Commission.

In Thailand, two legacies influenced the government decision to adopt a market initiative approach. First, Thailand's economic ministries had maintained non-interventionism in the market since the 1960s. Second, under the oligopoly of the largest banks, which continued even in the post-crisis years, government policy tended to reflect the preference of private bankers for the market-led approach.

Mexico's financial restructuring, featuring government initiative and substantial access for foreign capital (free market principles), was determined by two different factors. First, the government initiative reflected the PRI's tradition of interventionism in the economy. Second, however, government leaders no longer hoped to control the financial market as they had done before the Peso crisis. Their economic ideology was transformed into neoliberalism. This ideological change occurred because they had been seriously damaged by the two financial crises in 1982 and 1994.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,490,000	447,000	1,937,000
2009年度	1,450,000	435,000	1,885,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,920,000	882,000	3,822,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：政治学、経済政策、制度論

1. 研究開始当初の背景

1990年代の金融危機は東アジアやラテンアメリカ諸国に大きな経済的損失をもたらしたが、その後各国は金融再建に取り組み、経済回復に成功した。しかし、同様の危機に直面しながら各国の再建方法は異なっていた。

取り上げる国は韓国、タイ、メキシコの三ヶ国であるが、その選択理由は、第一に各国の危機が他国からの感染ではなく、国内の原因によって発生したと考えられること、第二に三ヶ国は危機後にIMF支援を受け入れたことである。

金融再建の違いは具体的には以下のとおりである。韓国の金融再建の特徴は「政府主導、迅速性、部分的な外資参入」であった。政府が不良債権処理、自己資本増強、銀行再編を主導し、再建が迅速に進んだ一方、銀行業への外資参入が部分的に認められた。

タイの金融再建は「市場主導、漸進的、限定的な外資参入」という特徴を持っていた。不良債権処理や資本増強は銀行の自助努力に任され、進捗も漸進的だった。外国銀行の

参入は三ヶ国で最も少なかった。

そして、メキシコでは「政府主導、中程度の進捗、外資の大幅参入」という再建が行われた。政府は金融再建を主導した一方、外国銀行の参入を容認し、市場主義が強まった。

こうした国毎の違いの原因について、従来の研究は以下の点で不十分である。まず政府と企業・銀行との関係を重視する研究は、アクター間の力関係から選好を一律に仮定しているほか、再建方法の選択肢の検討が不十分である。また政治、経済制度を重視する研究は、選好を一律に仮定しているほか、個別の事例の理解に問題がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上記のような金融再建における三ヶ国間の違いを解明することにある。

先行研究の上記の問題を克服するための分析枠組みは以下のとおりである。すなわち、政府・ビジネス間の制度的関係は重要だが、アクターの政策選好の形成を明らかにするには、政府の選択肢を示した上で、実際の選

扱がその制度的関係から導出されたことを論じる必要がある。

具体的には、韓国、タイ、メキシコが1990年代の危機後に取り組んだ金融再建について、ミクロの政策過程を比較の観点から分析する。とりわけ各国の政策決定者の政策選好、選択肢、認識を分析し、従来の金融システムから受けた歴史的、制度的な制約を明らかにしようとしている。

3. 研究の方法

国内での文献・データ調査に加えて、三ヶ国に赴き、資料収集および関係者への聞き取り調査を行った。

まず平成20年度は、タイに一ヶ月間滞在して調査を行った。元財務大臣や元中央銀行総裁などの元政府高官、国会議員、財務省や中央銀行の官僚、タマサート大学などの研究者、民間銀行の幹部職員などに対して聞き取り調査を実施して、独自の情報を入手した。同時に政府機関や大学の図書館で資料収集にも努めた。

平成21年度には、メキシコおよび韓国でそれぞれ3週間の現地調査を実施した。

メキシコでは、財務省および中央銀行の現役幹部、経済調査教育センター（CIDE, 大学に相当）の研究者、在メキシコ日本大使館職員などへの聞き取りを実施したほか、中央銀行や大学の図書館で資料を収集した。

韓国では、企画財政部、中央銀行、金融監督院の幹部職員、ソウル大学の研究者、韓国金融研究所の研究員、邦銀の現地支店の幹部職員などに聞き取り調査を行ったほか、これらの諸機関で資料収集を行った。

日本国内では、文献・データの収集を行うとともに、三ヶ国比較の分析枠組みを検討した。そして、上記の現地調査の結果を整理、分析した。

4. 研究成果

研究の成果として、韓国、タイ、メキシコの三ヶ国では通貨金融危機後の金融再建の段階においては、これまでの歴史的な遺制や伝統が政府の政策や対応に影響したため、各国の金融再建の方法が異なっていたことが明らかとなった。

具体的には、まず韓国では、政府介入の歴史的な伝統が政府の組織や官僚の思想に根付いていたことから、政府が積極的に金融再建を主導して、それが奏効した。

タイでは、政府が市場に介入しない遺制および思想があったため、政府は韓国のように積極的に不良債権処理や資本増強を行わず、民間銀行の自発的な再建を尊重した。

そしてメキシコの政府は、二度の金融危機を経験していたため、その経済思想が市場主義に転換しており、同時に、国有化された銀行の再民営化のために外国銀行の役割も強く求められていた。そのような原因によって、最終的に外国銀行による金融市場の支配を許容する結果となった。

以上の研究結果は、中間的な報告も含め、他大学からの求めに応じて研究会で報告を行ったほか、日本ラテンアメリカ学会、日本国際政治学会、EUSI 国際ワークショップで報告した。さらに、これまでの自分の研究成果と統合する形で、著書を執筆し、刊行することができた（下記5. 参照）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

〔学会発表〕（計 3 件）

岡部恭宜「ペソ危機後のメキシコの金融再建——韓国、タイとの比較歴史分析」、ラテンアメリカ学会西日本部会報告、2009年1月、神戸大学。

岡部恭宜「通貨金融危機の歴史的起源——韓国、タイ、メキシコにおける金融システムの経路依存性」日本国際政治学会、2009年11月、神戸国際会議場。

岡部恭宜 (Yasunobu Okabe) “Historical Origins of Financial Crises: Path Dependence of Financial Systems in Korea, Thailand and Mexico.” at EU Studies Institute in Tokyo (EUSI) Workshop “Meaning of Financial Crisis: The Comparative Analysis from Historical Perspectives,” Tokyo, Japan, February 2010.

〔図書〕（計 1 件）

岡部恭宜『通貨金融危機の歴史的起源——韓国、タイ、メキシコにおける金融システムの経路依存性』、木鐸社、2009年、322頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計 1 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

岡部恭宜 (Yasunobu Okabe) “Comparative Study of Financial Restructuring: South Korea, Thailand and Mexico,” Gateway to Asian Studies in Japan, Website, The Institute of Oriental Culture (IOC) at the University of Tokyo, May 2009. (<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/html/ess023.html>)

6. 研究組織

(1) 研究代表者
()

研究者番号：

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：